

赤磐市障害者計画・障害福祉計画（素案）に関するパブリック・コメント（市民意見）の募集結果

募集期間 平成24年2月3日（金）～平成24年2月27日（月）

意見提出者 2名（11件）

No	該当項目	いただいたご意見等	市の考え方
1	第1章 計画の概要 5. 計画の策定体制 (2) 障害者（児）実態調査の実施	P5 有効回答率58.7%とありますが、回答していない方々の今後をどのように考えていますか。	今回のアンケートの有効回答率は、前回5年前に同様に実施したアンケート回答率（63.0%）を下回っています。今回の調査においては、前回よりも関心度が低い面があったのかという捉え方もありますが、なぜ回答し得るに至らなかったかという点についての分析を行う必要はあると考えます。今後、計画の検証等を進めていく上で、ご意見等を把握する機会を設け、障害のある方々のニーズ把握に努めてまいります。
2	第2章 本市の障害者を取り巻く状況 2. 障害者の状況 (4) 療育手帳所持者の状況（年齢階層別）	P8 療育手帳等の保持者数だけの統計では、障害者の正しい状況が把握できとは言えません。踏み込んだ調査ができていないようであれば、通り一辺なやり方であり表面的な調査であると言えます。なお、発達障害に関しては現在増加傾向であり、表にでてきていない数もあり、彼らへの支援は今関係者で大きく注目され今後の課題となります。このためにも対応の施策が必要です。	手帳の保持者等に限って調査を進め、施策を実施することは当然できませんが、発達障害に限らず、潜在的に知的障害・精神障害・難病等障害のある方々の把握には、関係機関、関係団体、民生委員・児童委員等と連携し、実態把握に努めています。今後においても相談支援体制の充実を図り、障害のある方々に対する早期発見・適切な支援に努めてまいります。
3	3. 就学等の状況	P10～P11 就学などの状況では、保育園及び特別支援学級などの状況が数字で表されていて、良いと思う。これに加え、幼稚園、特別支援学校に通学している人数、就学前：小学校・中学校における障害児の割合があると、より実態把握ができると思う。	ご意見を参考に小学校・中学校等の障害児の割合など市において数字把握できるものは、記載します。

4	<p>5 . アンケートからみた障害者の状況 (1) 支援の必要性</p>	P14	<p>支援の必要性～具体的に「どんな支援が必要なのか」が不明です。</p>	<p>アンケート調査結果については、本計画書内には、大まかな項目の一部抜粋掲載とさせていただいておりますが、ご指摘のとおり、具体的な項目内容が不明な面もあると思われれます。今回の計画書において全ての項目の結果を掲載する形はとれませんでした。が、「赤磐市障害者福祉の推進のためのアンケート調査報告書」を計画策定の資料として、別途作成しておりますので、公表の機会を設け、提示させていただきます。</p>
5	<p>(2) 就労等の状況</p>	P14	<p>就労等の状況～具体的に「どんな仕事をしているのか」が不明です。</p>	
6	<p>(8) 暮らしやすくするために、とくに望むこと</p>	P18	<p>アンケート結果を見ただけでは、「赤磐市の考えている課題は何なのか」「何が必要と考えているのか」が伝わってきません。具体的な内容での質問と回答の引き出しが必要です。</p>	<p>アンケートの実施方法につきましては、配布前に内容について広く意見を聴取するような機会を設ける等、今後実施する上では、工夫をしたいと考えております。</p>
7	<p>第3章 計画の基本的考え方 第4章 施策の展開</p>	P19～P42	<p>第3章 計画の基本的な考え方に、3 . として「計画の体系」を掲載し、第3章の基本目標と、第4章の 施策の展開が、一目してわかる図式化したものを掲載してはどうでしょうか。</p> <p>なお、第3章と第4章は関連したものであるため、「基本目標（大目標）」、施策の展開の1 . 2 . 3 . 4を「重点目標（中目標）」、そして今後の取り組みを「施策の展開」としたらどうか、</p>	<p>ご意見を参考にして、第3章及び第4章については、基本目標と施策の展開を分かり易くするため、「計画の体系図」を標記したものを掲載します。</p>

8	<p>第4章 施策の展開</p> <p>2. 教育・療育の充実</p> <p>【現状と課題】</p>	P26	<p>早期療育に関わることは、成長発達を促すためだけではなくありません。それよりも、子育て支援の方が大切で、「家庭や保護者支援の考え方」が欠落しています。教育や療育の充実は必要ですが、本文では子どもを伸ばすことにしか価値が置かれていないように見てとれます。伸びない子どもはどうするのか？伸ばせない子どもはどうするのか？市としての価値観が問われています。</p>	<p>子育て支援に関わる視点の持ち方・考え方は、ご指摘のとおりだと思います。子育て支援・具体的な親子や家庭の支援を行っていく上では、別途計画されている「赤磐市次世代育成支援地域行動計画」で明記されていることを十分考慮します。そして既存計画に沿って施策を進めてまいります。</p>
9	<p>4. 保健・医療の充実</p> <p>【今後の取り組み】</p> <p>(1) 健康づくりの推進 母子保健の充実</p>	P32	<p>健診は障害の早期発見だけが目的ではありません。発見した後に「市としてどうかかわるのか」「子育て支援はどうするのか」「市は地域の中でその子とどう関わるのか」、「親子や家庭をどう支援していくのか」などの視点や方向性を明記しておくべきと思います。また、「乳幼児健診は親にかかわり支援していくためのもの」との考え方も不可欠です。実際に子どもを育てていくのはまぎれもなく親なのです。</p>	
10	<p>第5章 障害福祉計画の推進</p> <p>2. 平成26年度の数値目標</p> <p>3. 障害福祉サービスの見込量</p> <p>4. 地域生活支援事業の見込量</p>	P42～P55	<p>第5章の、平成26年度の数値目標 及び福祉サービスの見込量では、数値設定の根拠が不明であり、安直に経年的に数字を加算または列記しているようにも受け取れます。また、「見込量の設定が低い」とも思われます。なお、最上位計画である赤磐市総合計画の「障害福祉の充実」との関連で、「地域活動支援センター 型70人(現況) 120人(H.27年)が、福祉計画では見当たりません。</p>	<p>2. 平成26年度の数値目標の(1)施設入所者の地域生活移行及び(2)福祉施設から一般就労への移行における数値目標の設定については、前回計画における達成・未達成の実績値を考慮し、平成26年度達成に向けては、計画書にも明記されている国の指針の基本設定を参考に、関係事業所と協力して数値を上回れることを目標にしております。</p>

				<p>障害福祉サービスの見込量等については、前回計画と同様に計画最終年度の平成26年度に向けて各サービス見込量を想定し、その想定を行う上で今回は前計画の実績値を考慮して、数値設定を行っております。</p> <p>国の指針に比して、見込量設定が低い福祉サービスは、「就労移行支援」のサービスが上げられますが、県計画（圏域）も参考にして見込み得る範囲内での数値設定としております。</p> <p>地域活動支援センター（市内分）における実利用者数の推移ですが、本計画を策定中に、一部の市内地域活動支援センターが個別給付事業所へ移行する旨の計画が立ち上がり、この件を勘案した場合に平成24年度以降の実利用者数の増が予想し得なくなりましたので、本計画では据え置いた数値としております。「赤磐市総合計画」における数値は、状況を見極めて整合性を図る為に修正等を考えてまいります。</p>
11	4．地域生活支援事業の見込量 (1) 相談支援事業	P52	<p>障害者の地域生活支援の鍵となるものは、地域での相談支援体制づくりと中身の充実です。このことに関しては、赤磐市での現状は未整備であり十分でないように感じます。基幹になる相談支援センターの設置を赤磐市が独自で急ぐとともに、専門職スタッフの配置も同様をお願いする次第です。なお、自立支援協議会はその重要性からより強調し、関係団体の連携強でうまく機能することを希望します。</p>	<p>法改正により、相談支援制度の拡充に伴う対象者増に対応するための相談支援体制の充実は、平成24年度から進めていかなければなりません。今回の計画では、「基幹相談支援センターの設置」を明言するのみで具体的な体制を明示することができませんでした。当該センターについては、平成24年度以降に早急に立ち上げるべく、また「障害者虐待防止センター」の設置等も併せて整備していき、体制が整い次第、提示させていただきたいと考えております。</p>